2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	理学療法士学科	科目区分	その他	授業の方法	演習
科目名	総合演習Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時限	後期	教室名	普通教室
担当教員	山本　真吾	実務経験とその関連資格	理学療法士として多岐に渡る疾患の対象者を担当した実務経験有り。		

《授業科目における学習内容》

ケースを通して理学療法臨床思考を学ぶとともに、成果物(レジュメ、レポート)としてまとめる能力を培う。

《成績評価の方法と基準》

各疾患における成果物(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

有馬慶美編:実践編　ケースで学ぶ理学療法臨床思考　第2版

《授業外における学習方法》

疾患に関する知識についての事前学習とその日の学習内容についての復習及び次回の講義に向けた準備

《履修に当たっての留意点》

臨床現場を想定してCBLに取り組みましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折患者の臨床推論(情報収集～治療プログラムの立案)までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習(30分) 疾患についての予習 事後学習(30分) 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脊椎圧迫骨折患者の臨床推論を行う。		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折患者の臨床推論(情報収集～治療プログラムの立案)までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習(30分) 講義の予習 事後学習(30分) 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脊椎圧迫骨折患者の臨床推論を行う。		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折患者の臨床推論(情報収集～治療プログラムの立案)までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習(30分) 疾患についての予習 事後学習(30分) 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脊椎圧迫骨折患者の臨床推論を行う。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害(急性期)視床出血患者の臨床推論(情報収集～治療プログラムの立案)までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習(30分) 講義の予習 事後学習(30分) 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害(急性期)視床出血患者の臨床推論を行う。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害(急性期)視床出血患者の臨床推論(情報収集～治療プログラムの立案)までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習(30分) 疾患についての予習 事後学習(30分) 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害(急性期)視床出血患者の臨床推論を行う。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害（急性期）視床出血患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害（急性期）視床出血患者の臨床推論を行う。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	変形性股関節症患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 疾患についての予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	変形性股関節症患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	変形性股関節症患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 疾患についての予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論を行う。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 疾患についての予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論を行う。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して脳血管障害（回復期）視床出血患者の臨床推論を行う。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	人工膝関節全置換術患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 疾患についての予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	人工膝関節全置換術患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	人工膝関節全置換術患者の臨床推論（情報収集～治療プログラムの立案）までを理解しレジュメにまとめる事ができる。	教科書	事前学習（30分） 講義の予習 事後学習（30分） 講義の復習
		各コマにおける授業予定	CBLを通して人工膝関節全置換術患者の臨床推論を行う。		